

日本史探究 第10回 授業の進め方とポイント

【第10回テーマとEQ】

江戸幕府が約260年間も続いた理由を考えよう！

～江戸幕府の成立と幕藩体制～

【第10回の解説ポイント】

・豊臣秀吉の死後、後継者であった子の豊臣秀頼が幼少であったため、五大老・五奉行が政治をおこなうことになった。しかし、秀吉配下であった武将同士の対立が深刻化し、徳川家康を中心とする勢力と石田三成を中心とする勢力が対立することになり、全国の大名を二分する関ヶ原の戦いが起きた。

・関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康は征夷大將軍となって江戸幕府を開いた。江戸幕府の支配体制は幕藩体制と呼ばれるものであり、將軍（幕府）と大名（藩）が全国の土地と人民を支配した。中でも、將軍（幕府）は領地・経済力・軍事力などあらゆる面において圧倒的な力を持つことによって、全国の大名（藩）を統制した。

・將軍（幕府）は全国の大名を親藩・譜代・外様に分けて互いに監視させる体制を整え、大名が守るべき決まりを定めた武家諸法度を発布した。そこで定められた参勤交代の制度によって諸大名は一定期間江戸に住むことが義務づけられ、幕府の支配力は一層強まることになった。

・朝廷や寺社に対する統制もおこなわれ、天皇・公家による政治関与を禁止する禁中並公家諸法度が出され、全国の寺社を統制する寺社奉行が設置された。

また、禁教・鎖国政策についての解説も重要となる。江戸幕府は成立当初、海外との貿易を積極的に進めていたが、宣教師によって広められたキリスト教は武士・百姓・町人といった身分制度を崩壊させる危険性があったため、キリスト教を禁止する政策をとるようになった。さらに、キリスト教徒を中心とする島原・天草一揆が起きたため、禁教政策はさらに強化され、海外貿易も幕府によって管理・独占される、いわゆる鎖国体制が完成された。

【これまでに出了れた留学生からの質問】

・江戸幕府が開かれた後は、豊臣氏はどうなりましたか。

→江戸幕府が開かれた後も豊臣氏は一大名として存在していましたが、成人した豊臣秀頼の存在感と影響力を警戒した徳川家康によって、1615年大坂夏の陣で滅ぼされた。